

第4章 生活環境の向上

4-1 環境保全対策の推進



担当課 環境課

主な関係課 地域づくり課、清掃センター、建築住宅課、定住促進室、新里地域振興整備課、黒保根地域振興整備課、学校教育課



基本方針

恵み豊かな環境を守り、未来へ継承していくために、生活環境の保全を図るとともに、「環境先進都市^{※1}」を目指した環境施策を積極的に推進します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「環境保全対策の推進」の市民実感度 ^{※2}	%	50.7 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上



現況と課題

- ◆本市の生活環境について、事業所に起因する苦情は減少しつつありますが、野外焼却等の生活密着型の苦情が寄せられており、快適な生活環境を確保するための効果的な対策が求められています。
- ◆子どもたちの環境保全への意識を高めるため、環境教育の充実に取り組む必要があります。
- ◆「みんなでつくる 持続可能で快適な 幸せ感じる環境都市」を目指し、桐生市環境先進都市将来構想に基づく施策を推進しています。
- ◆「エネルギーの地産地消^{※3}」、「低炭素型交通^{※4}体系の構築」を基本に、「地域の自然・産業・文化・人的資源」を最大限に活用しながら、地域の実情に応じた取り組みを市民とともに考え、産学官民が一体となって環境と調和したまちづくりを目指す必要があります。

※1 環境先進都市…地域特性を最大限に生かして産学官民が一体となり創る、環境負荷が少ない持続可能で快適な、幸せを感じられる都市。
 ※2 「環境保全対策の推進」の市民実感度…市民の声アンケートの「自分は節電や環境に配慮した製品の購入など日頃から地球環境に配慮した生活をしている」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。
 ※3 地産地消…地域で生産されたさまざまな生産物や資源（主に農林水産物）を、その地域で消費すること。
 ※4 低炭素型交通…徒歩や自転車、公共交通、次世代自動車（ハイブリッド車や電気自動車等）などの化石燃料に依存しない、環境負荷の少ない交通手段。



施策の方向

1. 生活環境対策の推進

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「アースデイin桐生」におけるアンケート調査「環境に関心がありますか」に対し、“関心がある”と回答した市民の割合	%	69.0	調査の都度向上	調査の都度向上	調査の都度向上	調査の都度向上

施 策

1. 生活環境の保全
2. 環境教育の推進

2. 温暖化対策の推進

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
市の事務・事業から排出される温室効果ガスの排出量	t-CO2	34,197	33,508	33,164	32,819	32,475

施 策

1. 温暖化対策の推進 重点施策(総合戦略)



主な関連計画

- ◇桐生市環境基本計画（2011～2020年度）
- ◇桐生市環境先進都市将来構想（2015～2044年度）
- ◇第3次桐生市地球温暖化対策実行計画（2016～2020年度）
- ◇第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020～2024年度）



こども環境教室（植樹）

4-2 循環型社会の推進



担当課 環境課、清掃センター

主な関係課



基本方針

限りある資源を有効に活用していくため、生産から流通・消費・廃棄に至るまでの物質の効率的な利用やリユース・リサイクルを進め、市民・事業者に対する意識啓発を積極的に行い、ごみの発生抑制、資源の循環的な利用および適正な処理を推進します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「循環型社会の推進」の市民実感度 ^{※1}	%	64.7 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上
市民1人の1日当たりのごみ排出量	g	1,019 (2017年度)	1,070	1,047	1,024	997



現況と課題

- ◆市民1人の1日当たりのごみ排出量は県平均に比べ高い値で推移しており、環境への負担が少ない循環型社会の構築のために、ごみの発生や排出を抑制するとともに、不要となったものや排出されたごみもできる限りリユース・リサイクルしていく必要があります。
- ◆再生資源については集団回収を奨励していますが、回収量と登録団体数は減少傾向にあることから、実施体制の整備・強化が課題となっています。
- ◆ごみ焼却量の減少に伴いごみ焼却施設に余力が生じていることから、区域外のごみを受入れるなど施設の有効活用について検討する必要があります。

※1 「循環型社会の推進」の市民実感度…市民の声アンケートの「自分は日頃から、ごみの減量や資源のリサイクルを意識して生活をしている」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。



施策の方向

1. ごみ減量の推進

目標指標	単 位	基準値	目標値				
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
市民1人の1日当たりの生活系ごみ排出量	g	777 (2017年度)	741	735	729	721	
市民1人の1日当たりの事業系ごみ排出量	g	242 (2017年度)	329	312	295	276	

施 策

1. ごみの発生抑制
2. リユース・リサイクルの推進

2. ごみの適正処理

目標指標	単 位	基準値	目標値				
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
ごみ処理状況(ごみ処理量/ごみ搬入量)	%	100 (2017年度)	100	100	100	100	
ごみの年間最終処分量	t	4,941 (2017年度)	4,222	4,024	3,825	3,627	

施 策

1. 適正なごみ処理の推進
2. ごみ処理施設の適正管理



主な関連計画

- ◇ 桐生市環境基本計画（2011～2020年度）
- ◇ 桐生市一般廃棄物処理基本計画（2016～2025年度）

4-3 消防・救急体制の強化



担当課 消防総務課、予防課、警防課

主な関係課



基本方針

多様化する災害から市民の生命・財産を守るため、地域防災の要である消防団と消防体制の強化に取り組むとともに、救急体制の更なる充実を図り、市民の安全・安心の確保を推進します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「消防・救急体制の強化」の市民実感度※1	%	58.0 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上
出火率 (管轄人口1万人当たりの出火件数)	件/万人	3.15	3.13	3.11	3.10	3.08



現況と課題

- ◆大規模化、激甚化傾向にある災害等に対応するため、消防体制の強化が求められています。
- ◆地域防災の要として活動している消防団は、社会を取り巻く状況の変化により、団員数が不足しており、地域防災力の維持・向上のためには、団員確保のための対策や活動しやすい環境を整える必要があります。
- ◆年々増加傾向にある救急需要に対応するため、更なる救急体制の強化が求められていることから、救急隊員の資質向上、医療機関との連携強化および応急手当の普及啓発を図る必要があります。
- ◆管内の出火率の低減を図るため、火災予防の取り組みの強化が求められています。

※1 「消防・救急体制の強化」の市民実感度…市民の声アンケートの「桐生市は消防や救急の体制が十分に整っている」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。



施策の方向

1. 消防・救急体制の向上

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人口千人当たりの消防団員数	人	4.53	4.71	4.76	4.82	4.89
消防団協力事業所の登録数【延べ】	件	16	18	19	20	22
認定救急救命士数【延べ】	人	92	110	117	124	125
応急手当実施率	%	50.5	53.4	54.8	56.3	57.7

施 策

1. 消防体制の強化
2. 救急体制の強化
3. 火災予防の充実

2. 消防・救急施設の充実

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
防火水槽の設置数【延べ】	基	531	534	536	538	540

施 策

1. 消防・救急施設の充実



主な関連計画

◇ 桐生市地域防災計画（1972年度～）



訓練風景

4-4 防災・減災対策の推進



担当課 防災・危機管理課、土木課、建築指導課

主な関係課 全ての課



基本方針

災害から市民の生命・財産を守るため、地域住民との協働によって地域防災体制を充実し、地域の防災力を向上するとともに、産学官民がより連携を進め、総合的な防災・減災対策を推進します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「防災・減災対策の推進」の市民実感度※1	%	20.2 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上
市民の声アンケートの設問「日頃から、どのような備えをしていますか。」に対し、「水や食料の準備を行っている」と回答した人の割合	%	17.3 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上



現況と課題

- ◆大規模災害に対応できるように、災害対策全般を定める「地域防災計画」のほか、被災支援を円滑に受け入れるための「受援計画」を整備することが重要になっています。
- ◆各地域や地区単位での自主防災組織の結成とともに、高齢者・障がい者・乳幼児など、災害時に特別な配慮が必要な人に対して関係する各機関および各種団体と連携して支援を行える体制、また、水や食料、物資などを提供できる体制を整え、災害に備えることが重要です。
- ◆災害時は迅速かつ確実な情報伝達が重要であるため、あらゆる情報伝達手段について研究し、災害時の情報通信体制を強化する必要があります。
- ◆土砂災害危険箇所における土砂崩壊などの防止対策や河川の洪水対策に取り組む必要があります。
- ◆減災対策としては、市有建築物の耐震化を進めるとともに、市民へ耐震化の重要性を啓発し、一般住宅についても耐震診断および耐震改修の促進を図っていく必要があります。

※1 「防災・減災対策の推進」の市民実感度…市民の声アンケートの「お住まいの地区は治安が良く、安心して暮らすことができる」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。



施策の方向

1. 地域防災力の向上

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
災害時応援協定の締結数【延べ】	件	55	60	64	67	70
防災に関する出前講座・講演会の参加者数	人	400	420	450	480	500

施 策

1. 地域防災力の向上

重点施策(総合戦略)

2. 防災・減災体制の強化

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
住宅の耐震化率	%	69.9	80.0	81.0	82.0	83.0

施 策

1. 避難支援体制の強化

2. 情報通信体制の強化

重点施策

3. 災害に強い都市づくり



主な関連計画

- ◇ 桐生市地域防災計画（1972年度～）
- ◇ 第2期桐生市耐震改修促進計画（2016～2020年度）
- ◇ 第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020～2024年度）

4-5 防犯・交通安全対策の推進



担当課 地域づくり課

主な関係課 土木課、新里市民生活課、黒保根市民生活課、学校教育課

基本方針

市民が犯罪や交通事故に巻き込まれることのない、安全・安心な地域づくりを目指し、防犯・交通安全対策を推進します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「防犯・交通安全対策の推進」の市民実感度 ^{※1}	%	59.8 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上
刑法犯の認知件数	件	470	470	465	460	455
交通人身事故の発生件数	件	388	380	375	370	365

現況と課題

- ◆本市における刑法犯の認知件数は、さまざまな活動を進めてきたことにより年々減少傾向にありますが、社会情勢の変化に即応した効果的な地域安全活動を推進するため、関係団体と連携した、犯罪抑止対策活動の更なる展開が求められています。
- ◆防犯灯の維持管理に係る自治会等の負担を軽減することで、防犯灯の新規設置を促し、夜間の犯罪抑止を図る必要があります。
- ◆本市の2016年における交通事故死者数が統計開始以降初めてゼロ件となりましたが、依然として、年間350件以上の交通事故が発生していることから、交通安全対策の充実が課題となっています。
- ◆交通安全の啓発活動や運転免許証の自主返納を推進するほか、交通事故多発地点などの危険箇所への道路反射鏡設置など、交通安全施設の整備を進めていく必要があります。

※1 「防犯・交通安全対策の推進」の市民実感度…市民の声アンケートの「お住まいの地区は治安が良く、安心して暮らすことができる」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。

施策の方向

1. 防犯対策の強化

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
防犯出前講座の参加者数	人	227	235	240	245	250

施 策

1. 防犯活動の促進
2. 防犯対策の充実

2. 交通安全対策の強化

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
交通安全教室の参加者数	人	9,079	9,100	9,110	9,120	9,130
道路反射鏡の設置数【延べ】	基	3,887	3,890	3,893	3,896	3,899

施 策

1. 交通安全意識の向上
2. 交通安全施設の整備

主な関連計画

- ◇桐生市安全なまちづくり推進基本計画（2015年度～）
- ◇第10次桐生市交通安全計画（2016～2020年度）



交通安全フェスティバル

4-6 消費者保護対策の充実



担当課 地域づくり課

主な関係課



基本方針

年々、多様化・複雑化する消費者問題に対して、自らの判断と責任で行動することのできる自立した消費者を育成することを目指し、情報提供や啓発活動などの充実に取り組み、桐生市消費生活センターを中心に消費者保護対策を推進します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「消費者保護対策の充実」の市民実感度 ^{※1}	%	12.4 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上



現況と課題

- ◆本市の消費者問題については、国の消費者保護のための法整備が進んでいることなどから、相談件数は2004年度の3,464件をピークに2017年度では998件と減少していますが、相談内容はますます多様化・複雑化しており、特にインターネット関連のトラブルやハガキ、SNS^{※2}などによる架空請求が2016年度では137件、2017年度では380件と増加しています。
- ◆悪質、巧妙化する手口に対応するため、相談員の資質向上や消費者教育を充実させることが課題となっています。
- ◆スーパーマーケット等で計量行為が適正に行われているかを検査する「商品量目立入検査」や家庭用品の品質に関する情報が適正に消費者に提供されているかを検査する「品質表示調査」などの取り組みを通して、更なる消費者保護を図る必要があります。

※1 「消費者保護対策の充実」の市民実感度…市民の声アンケートの「桐生市は消費者のための情報提供や相談体制が十分に整っている」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。

※2 SNS…Social Networking Service（ソーシャル ネットワーキング サービス）の略で、人と人とのつながりを促進・支援するコミュニティ型のWeb サイトやネットサービス。「フェイスブック」や「ツイッター」などがある。

施策の方向

1. 消費者保護対策の充実

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
消費者啓発講座の受講者数	人	404	400	400	400	400

施 策

1. 消費者保護対策の充実



消費者月間事業

